



○小規模特認校「Second Stage」具体的に始動。

大宮南小学校は、平成25年度に、市内のどこからでも通える小規模特認校に指定され、子どもたち一人一人にきめ細かな指導を行うことはもとより、小規模校ならではの「特色ある教育」を構想し、実践しています。

現在、近くの大宮北小や第四小の学区の子どもはもとより、栃木市内の広範な地域（大平、藤岡、都賀、吹上など）から制度を活用し、多くの子どもたちが通学しています。

今年度からは、「特色ある教育」のさらなるステップアップを目指すために、「小規模特認校 Second Stage（セカンドステージ）」として取り組んでいます。

目指すのは、「小規模校を活性化させるための教育活動の高度化」です。

以下、始まっている特色ある教育活動の一端について紹介します。



★7口の朗読家等の活用による自己表現パフォーマンスの向上

(1)元NHKアナウンサーによる「あいさつ」のお話

4月15日に元NHKアナウンサーの根岸理子さんをお招きして、「あいさつ」についてのお話をいただきました。

根岸さんは、現在もテレビ番組の Reporter などで活躍しておられます。



根岸さんは、普段から「美しい日本語」を話すことを心がけているそうです。

子どもたちは、本物のアナウンサーの美しい「おはようございます」、「こんにちは」「ありがとうございました」、「さようなら」の言葉に出会い、あいさつの意味や大切さを学びました。



(2)書道家による「書写」の授業

書道家である大塚幸一先生による書写の授業が始まりました。まずは、墨のすり方、筆の使い方、姿勢など基本的なそして本格的な授業が開始されました。

大塚先生には年間を通して、3年生から6年生まで書道を教わります。教室に入ると「書」を学んでいるんだという凛とした空気が伝わってきます。自分の作品の一つ一つを丁寧によりよいものにするんだという気持ちが伝わってきます。

大塚幸一先生は平成15年から3年間本校の校長をされていたので、ご存じの保護者や地域の方もいらっしゃると思います。



(3)「話そう集会」におけるパブリックスピーチの指導

小規模校のメリットを最大化させる取組として、全校児童による「話し合い」そして「その内容を発表すること」を中心とした集会活動を年間を通して計画し実践しています。

それは、コミュニケーション能力、ひいてはパブリックスピーチ力をつけるための取組です。縦割り班（1年生から6年生まで混合の班）でテーマについて話し合い、発表し合います。



コミュニケーション能力はもとより、上級生にはリーダーシップを、下級生にはフォロワーシップを培う取組でもあります。今回は、「大南小のいいところを発信しよう」というテーマで話し合い、6年生が代表して発表しました。

子どもたちからは、大南小のよさとして、「みんな笑顔」、「人数が少ないからみんな仲良くなれる」、「みんな一緒に遊べる」等が話し合われ発表されました。

今後は、学校のよさを子どもたちがインターネットのHP等を作成して発信して行くことを構想していきたいと考えています。



◎ドリアン助川さんによる朗読パフォーマンス、朗読・詩作教室について

現在、作家や詩人、ミュージシャンなどで活躍中の「ドリアン助川」さんが、大宮南小学校の特色ある教育に共感してくださり、外部講師として朗読教室や詩作教室を行ってくださることとなりました。

まずは、ギタリストとの共演のライブとして、7月1日（金）に来校されます。ドリアン助川さん原作の「クロコダイルとイルカ」を原題とした朗読ライブです。

公開のステージとしますので、どなたでもご覧になれます。保護者や地域の方も、どうぞご覧ください。時間等は、学校だよりまたはメール配信にてお知らせします。

※ドリアン助川さんは、最近では映画「あん」の原作者として、またニッポン放送「テレホン人生相談」のメインパーソナリティとして活躍中です。

どなたでも参加できますので気軽に学校にご連絡ください。



◎OPLUS1 部活動が始まりました。「小さい学校でもできる」

放課後の部活動が始まりました。大南小では、水泳、陸上、駅伝、そしてハンドボールとみんなで開催します。みんなが選手です。陸上などでは、スパイクを履いて、陸上競技場のタータンの感触を感じながら走る体験は大きな学校ではなかなかできません。

まず、ハンドボールは、6月12日に行われる「関東大会栃木県予選」に挑みます。「がんばれ、大南小ハンドボーラー！」



◎10月8日(土)にオープンスクールを開催し、「特色ある教育」を公開します。また、11月5日(土)には学校祭(大南祭)を公開します。生き生きとした本校の児童の姿をご覧ください。

◎学校は、いつでもご覧いただけます。お気軽にご連絡ください。

(22-1483 吉田校長、齋藤教頭までお気軽に)